

## 1立方メートルの下水を処理するために どれだけの**お金**がかかっているの？



**負担金 26円 (19%)**  
猪名川流域と武庫川流域に処理場があり、処理を委託しています。

**人件費 3円 (2%)**  
下水道事業は現在28人の職員で担当しています。

**修繕費 2円 (1%)**  
ポンプなどを修繕するための費用です。

**その他 10円 (7%)**  
下水道使用料を徴収するための費用などが含まれています。

**減価償却費 56円 (40%)**  
下水道管やポンプなどの施設整備に係る経費を計上しています。

**支払利息 44円 (31%)**  
整備に多額の借金をしており、利息の支払いが高額になっています(借金残高約344億円)。



**1立方メートル当たり  
141円**かかっています

1立方メートルの下水を処理するために、どれだけのお金がかかっているのかを計算しました。1立方メートルといえば、トイレ約77回分、洗濯機約10回分、食器の手洗い約10回分に相当します。

平成22(2010)年度の実績では141円かかっています。減価償却費と支払利息の割合が高く、合わせて70%を超えているのが特徴です。  
また、宝塚市は下水処理場を持つておらず、兵庫県に負担金を支払って汚水の処理を委託しています。

### 下水道事業の厳しい経営状況

収入	
① 使用料収入	19億6890万8000円
② 処理水量	2409万4496㎡
③ 1㎡あたりの収入	82円
差引	
収入(82円) - 費用(141円)	= △59円

下水1立方メートルを処理して得る収入は、左表のとおり約82円です。費用と比較すると、約59円のマイナスが生じています。下水を処理するのにかかる費用といただく使用料収入では、過去からずっと費用の方が多くなっています。なお、下水道事業はここ数年多額の赤字を計上しており、利益の累積である利益剰余金(※)は平成21(2009)年度からマイナス(累積赤字)になっています。どのようにしてこの状況を打開するかが、下水道事業が現在抱えている一番の経営課題です。  
※利益剰余金とは、毎事業年度の企業活動により得た利益の累計額をいいます。

